

学術情報「共有」の将来像

KBから「電子の目録」へ

これからの学術情報システム構築検討委員会・佛教大学図書館 **飯野勝則**

現段階のKB（第1段階）

電子ジャーナルの見える方

京都語文 [[キョウトゴブン]]

トップ
エクスポート
内容を検索する
オンラインで見...
詳細
リンク

エクスポート

REFWORKS
ENDNOTE
RIS
印刷
固定リンク
E-MAIL

内容を検索する

この雑誌に含まれる論文・記事を探す

論文・記事のタイトルまたはキーワードを入力

オンラインで見る

フルテキストの有無

Freely Accessible Japanese Titles
利用可 所蔵範囲 1996 巻: 1.

詳細

タイトル	京都語文 [[キョウトゴブン]]
出版者	佛敎大学国語国文学会
ソース	所蔵資料
識別子	ISSN : 1342-4254

京都語文 [[キョウトゴブン]]

🏠 Freely Accessible Japanese Titles: getFullTxt

ISSN: 1342-4254

Available from 1996 volume: 1.

電子ブックの見え方（Alma業務用画面）

6  三訂 情報資源組織論 (現代図書館情報学シリーズ 9) [[サンテイ ジョウホウシゲンソシキロン]]
Maruzen eBook Library: getFullTxt
ISBN: 4-88367-339-1
ISBN (13): 9784883673391

全般

リンク

対象範囲

購入

注記

関連するポートフォリオ

履歴

パーサー (サービスレベル) Bulk::BKEY

サービスパーサーパラメータ url=https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/

URL種別 静的URL 動的URL パーサーパラメータ

パーサーパラメータ bkey=3000090521

URLタイプ (上書き) 静的URL 動的URL パーサーパラメータ

書誌レコード部分とリンクを形成するURL部分は分離しています。
「紙」の図書と所蔵（アイテム）部分が分離しているのと同じです

日本の電子ブックの書誌レコード

LDR	—cam-a22—z-4500
008	200811u2020uuuuuuuuu- o-u — jpn-d
020	__ a 4-88367-968-3
035	__ a (CKB)4920000000517047
245	10 a 三訂 情報資源組織論 (現代図書館情報学シリーズ 9) [[サンテイ ジョウホウシゲンソシキロン]]
246	__ a 情報資源組織論
246	__ a 三訂 情報資源組織論
260	__ b 樹村房
776	__ z 4-88367-339-1
906	__ a BOOK

書誌にはURLなどの情報は含まれません。メタデータは貧弱であり、著者名なども入っていません。書誌レコードには035に (CKB) とあり、コミュニティーゾーンにある書誌レコードが“共有”されている状況です

電子ブックの見え方 (Almaサービス画面)



三訂 情報資源組織論 (現代図書館情報学シリーズ9) [[サンテイ ジョウホウシゲンソシキロン]]
2020

トップ
エクスポート
オンラインで見...
詳細
リンク

エクスポート

REFWORKS ENDNOTE RIS 印刷 固定リンク E-MAIL

オンラインで見る

フルテキストの有無

Maruzen eBook Library	🔗
KinoDen EBA	🔗

詳細

タイトル	三訂 情報資源組織論 (現代図書館情報学シリーズ9) [[サンテイ ジョウホウシゲンソシキロン]]
その他のタイトル	情報資源組織論 三訂 情報資源組織論
出版者	樹村房
出版年	2020
ソース	所蔵資料
識別子	ISBN : 4-88367-968-3 ISBN : 4-88367-339-1

書誌とURLリンクは分離して表示されます

「紙」の書誌レコード

001	991006600678306201		_7 a Shiryōmokurokuhō 2 jlabsh.
005	20201210144059.0		_7 a シリョウモクロクホウ 2 jlabsh.
008	200525s2020 a jpn d	650	_7 a 資料分類法 2 jlabsh.
016	7_ a BB3053014X 2 JP-ToKJK		_7 a Shiryōbunruihō 2 jlabsh.
020	_ a 9784883673391 c 2100円 (税別)		_7 a シリョウブンレイホウ 2 jlabsh.
035	_ a (NII)BB3053014X	650	_7 a 資料組織化 2 ndlsh.
040	_ a NII b jpn		_7 a Shiryōsoshikika 2 ndlsh.
041	0_ a jpn		_7 a シリョウソシキカ 2 ndlsh.
084	_ a 014, 2 NDC8	700	1_ a 田窪, 直規 d (1958-) 0 (JP-ToKJK)DA10579440
084	_ a 014, 2 NDC9		1_ a Takubo, Naoki.
084	_ a 014, 2 NDC10		1_ a タクボ, ナオキ.
084	_ a 010.8, 2 NDC10	700	1_ a 飯野, 勝則 d (1972-) 0 (JP-ToKJK)DA18429725
245	00 a 情報資源組織論 / c 田窪直規編著 ; 飯野勝則 [[ほか] 著.		1_ a Ōno, Katsunori.
	00 a Jōhō shigen soshikiron.		1_ a イノ, カツノリ.
	00 a ジョウホウ シゲン ソシキロン.	700	1_ a 小林, 康隆 d (1953-) 0 (JP-ToKJK)DA16098718
246	3_ a 三訂情報資源組織論		1_ a Kobayashi, Yasutaka.
	3_ a サンテイ ジョウホウ シゲン ソシキロン		1_ a コバヤシ, ヤスタカ.
250	_ a 3訂.	700	1_ a 原田, 智子 0 (JP-ToKJK)A11532668
260	_ a 東京 : b 樹村房, c 2020.3.		1_ a Harada, Tomoko.
300	_ a xvii, 232p : b 挿図; c 21cm.		1_ a ハラダ, トモコ.
490	1_ a 現代図書館情報学シリーズ / 高山正也, 植松貞夫監修 ; v 9	700	1_ a 山崎, 久道 0 (JP-ToKJK)DA12228312
	1_ a Gendai toshokan jōhōgaku shirīzu		1_ a Yamazaki, Hisamichi.
	1_ a ゲンダイ トショカン ジョウホウガク シリーズ		1_ a ヤマザキ, ヒサミチ.
500	_ a その他の著者: 小林康隆, 原田智子, 山崎久道, 渡邊隆弘.	700	1_ a 渡邊, 隆弘 d (1962-) 0 (JP-ToKJK)DA1609873X
500	_ a 参考文献: p201.		1_ a Watanabe, Takahiro.
650	_7 a 資料目録法 2 jlabsh.		1_ a ワタナベ, タカヒロ.

「紙」の図書の見え方（Almaサービス画面）



情報資源組織論 / 田窪直規編著; 飯野勝則 [ほか] 著.
田窪, 直規 (1958-); 飯野, 勝則 (1972-); 小林, 康隆 (1953-); 原田, 智子; 山崎, 久道; 渡邊, 隆弘 (1962-) 2020.3.

資料分類法 >
資料組織化 >
三訂情報資源組織論
現代図書館情報学シリーズ / 高山正也, 植松貞夫監修; 9
東京: 樹村房,
2020.3.
3訂.
形態 xvii, 232p: 挿図; 21cm.
ソース 所蔵資料
識別子 ISBN : 9784883673391
NDC : 014,
NDC : 010.8,
一般注記 その他の著者: 小林康隆, 原田智子, 山崎久道, 渡邊隆弘.
参考文献: p201.

その他のタイトル
シリーズ
出版者
出版年
版
形態
ソース
識別子
一般注記

関連資料



情報機器論 1998.10
Library lion c2006
資料組織概説 1998.2
資料組織演習 1998.3

リンク
書誌レコード詳細 >

トップ
エクスポート
資料を入手する
詳細
関連資料
リンク

エクスポート

資料を入手する

リクエスト等を行うには、ログインしてください [ログイン](#)

< 排架場所一覧に戻る

排架場所のアイテム一覧

紫野図書館
利用可, 2階 014 シソカ
(1 資料, 1 利用可, 0 リクエスト)

在架 請求記号: 014 シソカ f

詳細

タイトル 情報資源組織論 / 田窪直規編著; 飯野勝則 [ほか] 著.
著者 田窪, 直規 (1958-) >
飯野, 勝則 (1972-) >
小林, 康隆 (1953-) >
原田, 智子 >
山崎, 久道 >
渡邊, 隆弘 (1962-) >

KBとインベントリ（ローカル）の比較

（KB）

日本の書誌レコードは**貧弱**ですが，**出版社（ベンダー）**に由来するものとして**共有**されています

書誌レコードとURL，所蔵情報は**分離**する形で作成されています

Almaにおいては，**いずれもCZに属しています**

※ライセンスについては，CZでは集約されていません

（インベントリ）

日本の書誌レコードは**リッチ**ですが，**NACSIS-CAT**から**ダウンロード**されたものです

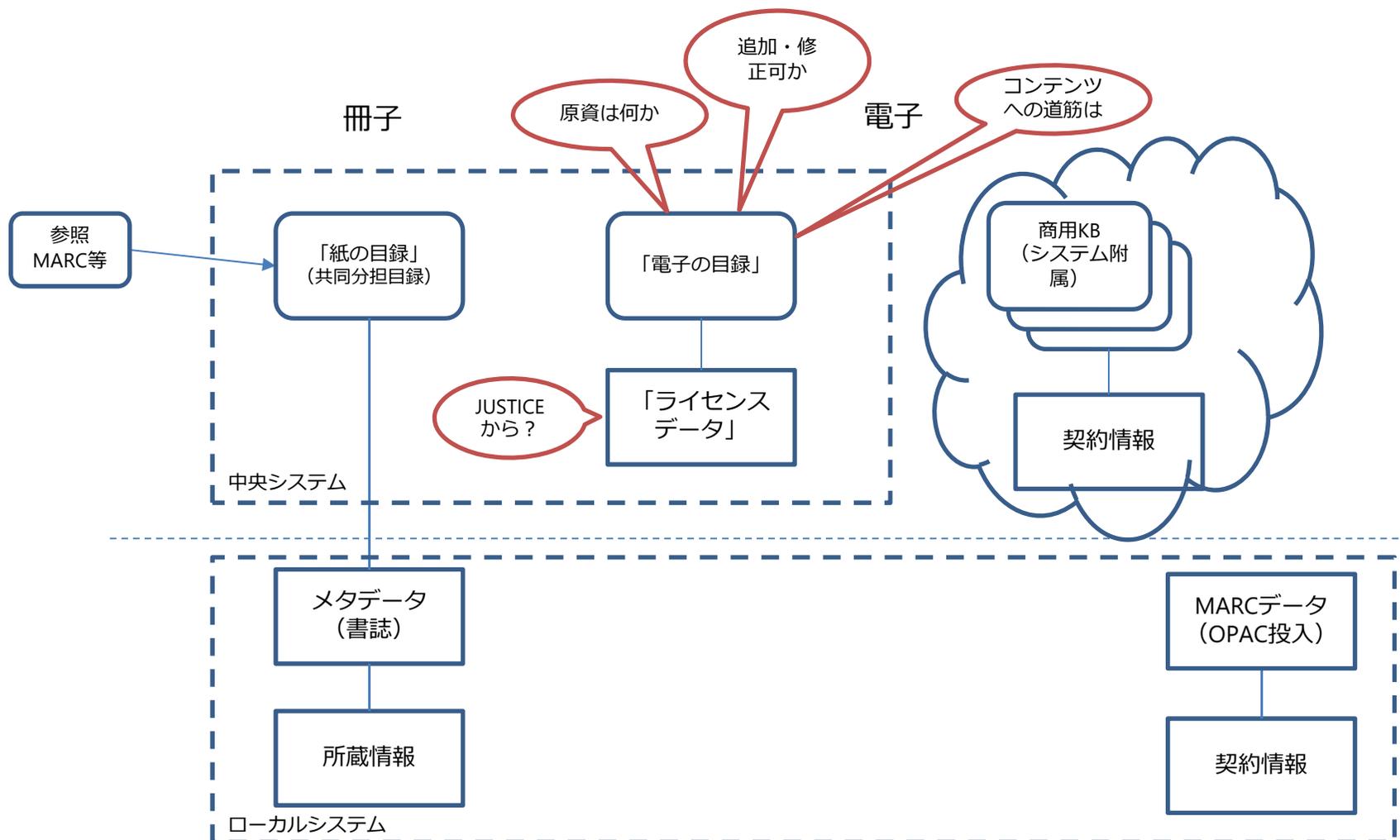
書誌レコードと所蔵，アイテム情報は**分離**する形で作成されています

Almaにおいては，**いずれもIZに属しています**

ライセンスについても，IZ内での作成にとどまっています

日本のKB共有化が進捗したら（第2段階）

さまざまな疑問



日本におけるKB共有化進捗の第2段階

- 出版社の協力による国内出版の学術系電子ブックの捕捉
- 出版社が作成した流通系書誌レコードの活用（FRBR的発想を基盤に）
- コンソーシアムとしてのライセンス情報とタイトルリストの集約と提供の開始



もちろん利用者による電子ブックへのアクセスがたやすくなるとは思いますが、その先について**起こりうることを**考えてみます

なぜ出版社の協力が必要なのか

- 丸善雄松堂や紀伊國屋書店で自社のサイト向けに作成している電子ブックの書誌レコードは、抄録や目次データを含みますが、この部分の著作権について対応が難しい部分があるようです（実際、色よい返事はありませんでした）
- したがって、これらの会社の書誌レコードを利用を前提とするだけでは、中央システムとして、特定のベンダーだけでなく、さまざまなローカルシステムでの利用を前提とすると、問題が生じます
- 海外も同様の問題を踏まえ、出版社から直接書誌レコードを提供してもらう流れが一般的になっています
- OAの電子ブックなどの把握も、書店経由より効率的に行える可能性があります

openBDを經由しての共有

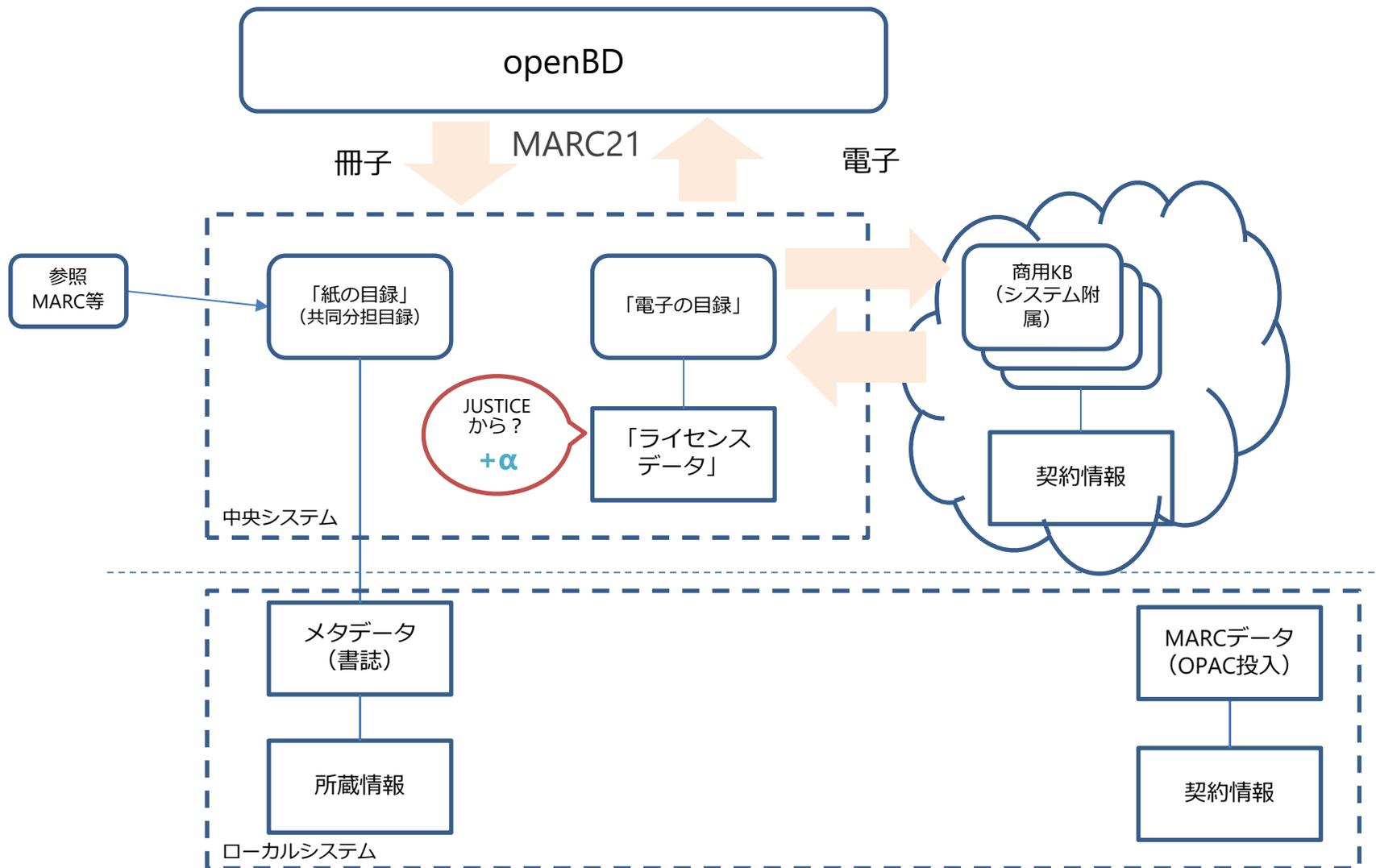
openBD

書誌情報・書影を自由に

- 版元ドットコムに登録している中小出版社400社の書誌データとJPROに直接登録している出版社のデータが集約されています（JPRO-onix/JSON）
- 現在、取次を通過した本のJPRO掲載率は86%（2019年度）ですが、取次の電子化により今後100%近くにはなるということで、さらなる集約が期待されます
- 電子書籍取次大手のメディアドウの電子ブック等のデータが入る予定です

部会としてopenBDとは交渉を開始済。今後も定期的に情報交換を実施します

openBDに期待されること



openBDとテクニカルサービス

- openBDには、JPROや版元ドットコムから取次に提供される**近刊情報**が含まれており、一定の速報性を有しています
- 佛教大学では、openBDの書誌データを活用し、「紙」の図書の入用の簡易書誌を構築しており、**現物受入作業**の効率化を**実現**しています
- openBDという流通系データベースとのデータ共有が進むことで、テクニカルサービスの業務軽減を図ることができるようになります
- とくに販促用に記述されている抄録・目次データについては、利用者の発見可能性を高くするデータとして活用する余地があります

ただしopenBDの書誌データには図書館的に見て十分ではない部分も多いため、「目録」として活用するには、**ローカルシステム (IZ)** に**ダウンロード**したデータを相当に**修正**、**追記する必要**があります

KBから「電子の目録」へ（1）

- 中央システムのKBにおいては、openBDを**ハブ**として収集された電子ブック等の書誌レコードを収集し、活用できる「**電子の目録**」に変化する必要があると考えます
- 「電子の目録」の追加・修正は、**初期段階**には**コミュニティ**として行えることが必要だと考えます。openBDのデータは参照ファイルとしてKBにコピーされ、それに対して手を入れるという形になると思われます
- ただし「電子の目録」の書誌レコードについては、MARC21がそうであるように、グローバルに共有される領域とローカル領域を分離して扱うことで、全参加館に対する修正データの即時反映を行えるようにすることも必要になると思われます（**修正の「共有化**」ですね）
- アクセス情報に関してもパラメータの設定など、参加館によって異なる可能性もあるので、CZとIZで扱える領域を分離する必要があります

KBから「電子の目録」へ（2）

- ただし**アクセス情報**については、現状と同じようにそれらを提供する**プラットフォーム**から収集する必要があります
- 中央システムとしてタイトルリストとして、それらをプラットフォームから入手したうえで、openBDからの書誌データと結び付けることもできます。もちろん商用KBとの連携も可能でしょう
- 現実的にはこの方法による「電子の目録」の構築が、もっとも**効率的**かつ、大学図書館の**ニーズ**に沿ったものになるのではないかと思います

ライセンスデータ

グローバル（ウェブスケール）

コンソーシャル（グループスケール）

ローカル（インスティテューション）



共有可

適用対象によって内容が変わるというスケール感は、他のデータの在り方とかわりません

ライセンスデータと共有

- 出版社やプラットフォームが設定する**グローバル**なライセンスデータ、JUSTICEなどのコンソーシアムが設定する**コンソーシャル**なライセンスデータについては、いずれも**共有対象**として収集される必要があります
- ライセンスデータは「電子」のメタデータとの紐づけ（リンク）が必須となります。図書館においては、**デフォルト**ではグローバルなライセンスデータに紐づきつつ、自分たちの都合に合わせて変更できるような機能が求められます
- 現状**JPRO**では「紙」に対して「**著作権**」というライセンスデータの管理を始めています。このような動きを踏まえて、openBDで出版社が考える「グローバル」なライセンスデータを収集することもできる可能性があります
- プラットフォームが設定するものについては、タイトルリストと同様に、プラットフォームから入手するというのが**現実的**かもしれません

流通におけるメリット

- openBDへの登録は、流通にとって**販促**の一環であることは間違いありません
- ライセンスデータを正しく周知できる環境ができれば、出版社やプラットフォームのベンダーにとって、自らが提供するコンテンツが「**正しく**」使われ、それにより不正な利用が減り、**利益**をもたらすことが見込まれます
- すなわちopenBDにライセンスデータを提供することが、**流通のメリット**につながる可能性があります
- 一方でライセンスデータについて、プラットフォーム間や出版社間での**比較**が行えるようになると、より当事者において、販促に役立つような、**使いやすいライセンス**の出現を促すきっかけになる可能性があります

日本のKB共有化が進捗したら（第3段階）

テクニカルサービスの激変

- 「電子の目録」の書誌レコードが、openBDの**目次データ**や**抄録**を十分に反映し、かつ海外の書誌レコードのように水準の高いものになれば、グローバル領域の書誌データを**修正**する必要はなくなります
- このことは「紙」も「電子」も体现形の違いだけ、というFRBRの考え方に基づけば、「紙の目録」の書誌レコードの扱いについても**同様の変化**が起きると考えられます
- これにより、図書館はローカル領域の設定のみを行えば十分という状況が生まれます
- つまり図書館は中央システムが用意する「紙の目録」と「電子の目録」のグローバル領域（CZ）のデータを触ることなく、**そのまま**自館の目録として利用できるようになります

中央システムの「ディスカバリーサービス」化

Simcoe County EBSCO Discovery Service

1618216 Results Found

Limit Search Results

Expanded by: Also search within the full t...

Narrowed by: Available in Library Collection

Expanders

Apply related words

Apply equivalent subjects

Limiters

Peer Reviewed

References Available

Published Date

Source Type

Magazines	(384853)
Academic Journals	(338897)
News	(267167)
Reviews	(60000)
Books	(14970)

Subject

nonfiction	(64654)
fiction	(36118)
automobile industry	(14315)

1. **Title Japanese American Internment.**
Author Weisman, Kay
Format Periodical

2. **Title Loyal Citizens.**
Author Feldman, Ruth Tenzer
Format Periodical

Collingwood Public Library

A Visit Will Get You Thinking. About Us | Location & Hours | Contact Us

Collingwood EBSCO Discovery Service

932608 Results Found

Limit Search Results

Expanded by: Also search within t...

Narrowed by: Available in Library ...

Expanders

Apply related words

Apply equivalent subjects

Limiters

Peer Reviewed

References Available

Published Date

Source Type

Related: [Japan](#)

1. **Title IT IS FOOD THAT CALLS US HOME: A Multigenerational Auto-Ethnography of Japanese Canadian Food and Culture.**
Author IKEBUCHI, SHELLY
Format Academic Journal

これにより中央システムが各参加館に対して**個別のインスタンス（検索画面）**を用意することで、「目録」は期せずして**ウェブスケール・ディスカバリー**になります（カナダのCounty of Simcoe Library Cooperativeコンソーシアムなどですでに実現しているようです）

マイクロコンテンツへの対応

The screenshot shows the Bukkyo University Library search interface. The search bar contains the query '3-319-54341-5'. The search results are for the journal 'Famines During the 'Little Ice Age' (1300-1800)'. Two articles are displayed:

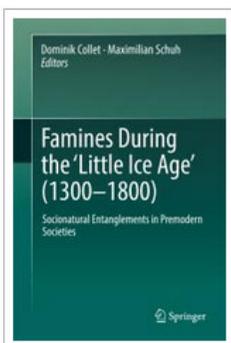
- 1** **オンライン** Starvation Under Carolingian Rule. The Famine of 779 and the Annales Regni Francorum
: Ebert, Stephan
Famines During the 'Little Ice Age' (1300-1800), 08/2017
How vulnerable was the Frankish society to famines in the Early Middle Ages? Modern concepts of vulnerability and resilience are mainly used to describe...
図書論文 / 章見出し 本文あり (一部例外を含む)
[プレビュー](#)
- 2** **オンライン** Combining Written and Tree-Ring Evidence to Trace Past Food Crises: A Case Study from Finland
: Huhtamaa, Heli
Famines During the 'Little Ice Age' (1300-1800), 08/2017
The lack of written source material on population and food availability has hindered studies on medieval and early modern food crises in many parts of the...
図書論文 / 章見出し 本文あり (一部例外を含む)
[プレビュー](#)

On the right side of the second article, there is a SCOPUSSM 1 badge.

On the left side, there are filter options: 'フィルターをクリアにする', '絞り込み' (本文あり, 査読あり, オープンアクセス(OA), 佛敎大学蔵書 (OPAC)), '資料タイプ' (図書論文 / 章見出し (14) ✓, 図書 / 電子ブック (2)), 'データベース(ソース)', '新規登録レコード', and '発行年月日' (with a date range selector).

openBD由来の「電子の目録」の書誌レコードが、目次レベルの情報を有する場合、以前から作業部会で提案されてきたような**チャプターレベルのレコード**を**機械的に作成**し、共有することも可能になります

デリバリー概念の変化



📖 オンラインで読む

📄 リクエスト

➕ ブックシェルフに追加

🔗 ブックへのリンクを共有

📄 ブックを引用

Famines During the 'Little Ice Age' (1300-1800) : Socionatural Entanglements in Premodern Societies

Dominik Collet and Maximilian Schuh

利用可能状況

5分間このブックを読むことができます。5分後にリクエストフォームが表示されるので、ご希望の場合はリクエストしてください。

📄 PDFの章をダウンロード

80ページまで取得し、PDFソフトウェアを使用、有効期限はありません。

説明

This highly interdisciplinary book studies historical famines as an interface of nature and culture. It will bring together researchers from the natural and social sciences as well as the humanities. With reference to recent interdisciplinary concepts (disaster studies, vulnerability studies, environmental history) it will examine, how the dominant conception of natural and cultural factors can be overcome. Such an integrated approach includes...

目次

Intro

ページi-iv ; 4ページ

📄 PDFをダウンロード

📖 オンラインで読む

Contents

ページv-1 ; 2ページ

📄 PDFをダウンロード

📖 オンラインで読む

Introduction

ページ2-2 ; 1ページ

📄 PDFをダウンロード

📖 オンラインで読む

1 Famines: At the Interface of Nature and Society

ページ3-16 ; 14ページ

📄 PDFをダウンロード

📖 オンラインで読む

書籍詳細

タイトル

Famines During the 'Little Ice Age' (1300-1800)

サブタイトル

Socionatural Entanglements in Premodern Societies

編集者

Dominik Collet and Maximilian Schuh

出版社

Springer International Publishing AG

印刷物出版日

2017-08-09

📄 PDFの章をダウンロード
より多く表示

ILLの進化

- マイクロコンテンツの検索結果から、ILLへシームレスにつながる仕組みを作ることで、より正確なメタデータを取り込んでの申請ができることとなります
- また（図書館と出版社が望む）ライセンスデータを明示し、その内容をシステム側に反映させることで、ILLができるもの、できないものの判別が明確に行えるようになります
- これにより、海外と同様に利用者が所属する図書館の手を介さない **Unmediated**のILLの実現可能性が高まります
- 一方で、出版社と協力し、ILLと併せてコンテンツそのものの**販売**や**STL**などを提供することで、文献入手の多元化を進めることができます

「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）について」

（2）図書館資料の送信サービスの実施

【現行規定・課題】

- 国立国会図書館や公共図書館・大学図書館等は、利用者の求めに応じて、著作物の一部分を複製して提供することが可能。
- F A Xやメールなどによる送信（公衆送信）を行うことはできないため、遠隔地等からの簡易・迅速な資料の入手が困難。



【対応の方向性】

- 権利者保護のための厳格な要件設定及び権利者への対価還元を行うこと前提に、国立国会図書館や公共図書館・大学図書館等が、利用者の求めに応じて、著作物の一部分をF A Xやメールなどで送信できるようにする。
- 具体的には、正規の電子出版等の市場を阻害しない要件設定、データの流出防止措置、送信サービスが実施できる図書館等の限定を行うとともに、個別的かつ逸失利益を補填できるだけの水準の補償金により著作権者・出版社への対価還元を行う。

4

実現のために必要なこと

中央システムの存在

- もっとも重要な点として中央システムが存在することが大前提となります
- 原資は**受益者負担**ということになると考えられます
- ただし、中央システムについては、LSPの一機能を使うということになるかと思いますが、コンソーシアムなどで「電子の目録」を「紙の目録」と分離して扱うことは、将来的な統合的発見環境の実現を念頭におくと、阻害要因になる可能性があるかもしれません
- すなわち「電子の目録」はいらない、といってその機能だけを外した場合、統合的発見環境の実現を目的とする「総合目録」において、それだけを外したものを用意することにつながるからです
- これを防ぐには、**コンソーシアム自体も「紙」と一体化させる**、あるいはOAの「電子」のコンテンツを積極的に収集し提供できる体制とするなどして、だれもが「電子の目録」の**恩恵**を被ることができるように一定の工夫をする必要があると思われます（OAの把握が容易というのは**訴求力**があります）

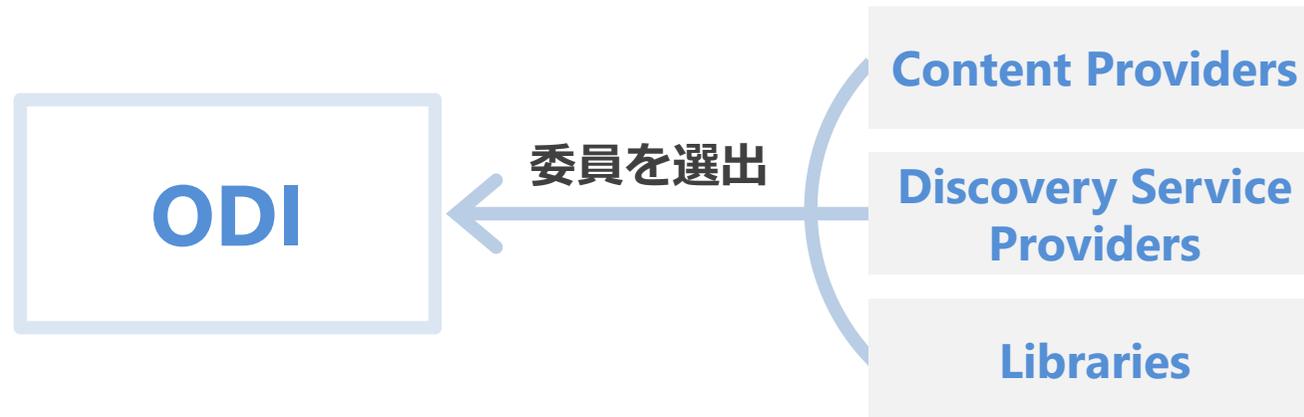
ODI: Open Discovery Initiative (1)

Open Discovery Initiative = ODI

(オープン・ディスカバリー・イニシアティブ)

- **米国情報標準化機構 (NISO)** の賛助により運営される**常設委員会**
(※ National Information Standards Organization = NISO)
- **ウェブスケール・ディスカバリー・サービス**に関するデータや技術に関するさまざまな**指針**を示しています

ODI: Open Discovery Initiative (2)



- **Content Providers, Discovery Service Providers, Libraries**の三者から選出された委員によって構成され、**それぞれの役割を明確化している**という特徴があります
- 最新は**2020年改訂版 (2020 Revision)** です

ODI: Open Discovery Initiative (3)

NISO RP-19-2020, Open Discovery Initiative: Promoting Transparency in Discovery

- ODIにおける図書館の役割
- OAコンテンツの取り扱い（ハイブリッドOAを含む）
- コンテンツプロバイダーにとって役立つ利用統計
- 公平なリンクング

ほか、**透明性を高めるための技術的要件**などを提示しています。

- Summon/EBSCO Discovery Serviceなどのベンダーはこのイニシアティブに準拠することを表明しています。

ODIから見えること

- 図書館と中央システムの運営主体，出版社は共生関係になることが，学術情報流通の視点からは望ましいということだと思います
- 特に出版社との協力が進むことで，openBDのデータの高水準化や図書館の望むメタデータの提供を積極的に行ってもらえるようになります
- すなわち，図書館と協力し，さまざまなデータを共有することが出版社にとって利益になることを理解してもらう必要があります
- 「目録」からSTLや販売の道を用意するのも考慮する必要がありますし，中央システムの利用統計をビッグデータとして三者で共有していくことも必要になると思われます
- より良い書誌データが共有されることで，世界中に販路が広がることや，それにより日本の存在感を高めることにもつながるということを理解してもらえるとよいかもしれません

ご清聴ありがとうございました